

2021.6.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行  
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：7月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児

★「幼稚園・保育園のための子ども読書研修会」

※開催日変更

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○日時：7月17日（土）13：00～15：00（受付：12：30～）

○内容：「知って楽しむ紙芝居 ～読み聞かせのコツと選び方～」 ○対象：県内の幼稚園教諭、保育士等

★「第2回新刊児童書閲覧会」

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○期間：7月21日（水）～7月25日（日）9：00～17：00

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み）

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○申込方法：7月14日（水）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本—乳幼児から＞

『おふろ』 石津ちひろ/ぶん 石黒亜矢子/え BL出版 2021.4 ¥1000

家に帰ってきた子猫の兄弟。汗もかいたしどろんこなのでお風呂に入ろう。元気いっぱいお風呂のうたを歌おう！「ひとつひよいひよいふくぬいで ふたつふらふらフラダンス みつつみんなでふざけていたら…」1から10までのかぞえうたで、可愛らしい三匹の子猫の兄弟がお風呂の支度からあがるまでの様子を楽しく描く。シリーズで『おやつ』『おやすみ』も同時刊行。

＜絵本—3, 4歳から＞

『へんてこたいそう』 新井洋行/作・絵 小峰書店 2021.4 ¥1200

普段はじっとしているトイレのマークが、へんてこ体操をはじめたよ！ひらいて、ふんばって、いっちに、いっちに。非常口のマークも走って～、ぷりぷり、いっちに、いっちに…。街でみかけるお馴染みのマークたちが、体を動かして楽しそう。一緒に体操してみよう！いつもは気にも留めないでいるマークに、興味がわくことまちがいの楽しい絵本。

＜絵本—5, 6歳から＞

『まよなかのトイレ』 まるやまあやこ/さく 福音館書店 2021.4 ¥900

真夜中、トイレに行きたくなって目が覚めたひろこ。お母さんは、赤ちゃんのおむつをかえていたので、勇気を出して一人でトイレに行くことに。ぬいぐるみの猫のみいこのしっぽにつかまり、暗い廊下を通り、ようやくトイレまでたどりつくと、なんと中にいたのはやぎ。その後もピンチをうさぎやあらいぐまに助けられ…。女の子の小さな冒険と勇気と成長を描いた、心温まる絵本。

『ひー』 りとうようい/作・絵 鈴木出版 2021.4 ¥1300

ひー！ヒヒが逃げ、ヒョウが追いかける。木に登り、川を渡り、どンドン逃げる。キリンの頭につかまったり、ぞろぞろと迫ってくるワニに驚いたり、フラミンゴの群れが飛び立ったり、ゾウの鼻にとびついたり、ペリカンのくちばしにはまったり…。まだまだ続くヒヒとヒョウの鬼ごっこ。ユーモラスな動物の表情に思わず笑ってしまう縦開きのド迫力の絵本。読み聞かせにもおすすめ。

＜絵本—小学校低学年から＞

『ふまんばかりのメシユカおばさん』 キャロル・チャップマン/さく アーノルド・ローベル/え こみやゆう/やく 好学社 2021.4 ¥1600

昔ある村に、メシユカというおばさんが住んでいた。朝から晩まで不満ばかり。息子や娘や家の愚痴を、村の人にこぼしていた。ある日、メシユカの舌がチクとしたかと思うと、変なことが次々と起こりはじめ…。不満ばかりこぼしていたメシユカが、物事を前向きにいいように考えるようになっていく様子をユーモラスに描く。アーノルド・ローベルの絵も味わい深い。

＜絵本—小学校中学年から＞

『二平方メートルの世界で』 前田海音/文 はたこうしろう/絵 小学館 2021.4 ¥1500

脳神経の病気で入退院を繰り返している私。入院中は約2メートル×1メートルのベッドと周りを囲うカーテンの中が私の世界のすべて。ある日オーバーテーブルの裏にたくさんのメッセージをみつけ…。病気の子どもたちのかすかな声を届けたいという作者の魂の言葉が胸に響く。第11回子どもノンフィクション文学賞小学生の部大賞を受賞した小学生の作文をもとに出版された絵本。

＜読み物—小学校低学年から＞

『すてきなひとりぼっち』 なかがわちひろ/作 のら書店 2021.5 ¥1500

絵を描くのが好きな一平くん。クラスでもひとりぼっちになりがちだが、そんなのは慣れたもの。ある日、雨の中、家に帰るとお母さんが留守。家に入れず、たぶん買い物途中でおしゃべりしているであろうお母さんを迎えに行くことに。道で見つけた子亀と一緒に探したが、途中道に迷い、ひとりぼっちの不安を感じていたところ…。見守る知らない人たちの親切をあたたかく描いた絵本。

<読み物—小学校中学年から>

『おれは女の子だ』 本田久作/作 市居みか/絵 ポプラ社 2021.5 ¥1300

おれは小3のすばる。絵を描くのが得意で色ではピンクが一番好き。図工の時間に空想の空をピンクで塗っていたら、鈴木君が「やーい、やーい、女の子」としつこく言ってきたもんだから、「そうだよ、おれは女の子だ」と言い返した。その後、女の子の服を着たり、男子用トイレに行ったり、女の子を泣かせてしまったり。いったいおれはどうすりゃいいんだ？男の子のドタバタ成長物語。

<読み物—小学校高学年から>

『サステナブル・ビーチ』 小手鞠るい/作 カシワイ/絵 さ・え・ら書房 2021.4 ¥1400

小学校最後の夏休み、アメリカ人の母ちゃんとぼくは、ハワイ旅行に行くことに。そこで出会ったのは、ビーチに打ち上げられたごみで作品を作るアーティストのオーガストさんと、壁に海と海の生物を愛情深く描く、ぼくと同じ歳の少女ピカケ。二人は、サステナブル・ビーチ（持続可能な破壊されていない海辺）の実現のために、ぼくができることを教えてくれた。SDGsを考える本。

『チョコレートのおみやげ』 岡田淳/文 植田真/絵 BL出版 2021.6 ¥1500

お休みに、みこおばさんに異人館や港に連れてきてもらった小5のわたし。そこでおばさんは、風船売りの男と彼の相棒のニワトリの話を教えてくれた。長くご主人の帰りを待ち続けたニワトリは、金物大工に頼んで風見鶏にしてもらい屋根の上へ。3か月後、やっと戻ってきた男は屋根の上の風見鶏を下ろして、口にチョコレートをに入れてやると…。時間をとがしていき力をもつ、チョコレートのお話。

<読み物—中学生から>

『少女と少年と海の物語』 クリス・ヴィック/著 杉田七重/訳 東京創元社 2021.5 ¥3000

ビルは16歳。父親の知人のヨットで、カナリア諸島からの航海を楽しんでいたが、激しい嵐に遭遇し、ヨットが転覆。手漕ぎボートで助かったが、海上を漂ううちに、同じように嵐で遭難した少女アーヤを助ける。水と食料を分け合い、死と隣り合わせの日々。二人の運命は、そしてアーヤの正体は。散りばめられたシェヘラザードの物語になぞらえ、物語のもつ力強さに気づかされる作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『仕事に行ってきます⑩ 図書館の仕事 祥弘さんの1日』 埼玉福祉出版部 2021.3 ¥2200

東京都北区立中央図書館に勤める一人暮らしの祥弘さん。朝6時半に起きて朝食を摂り、身支度を整え、電車に乗って通勤する。図書館では、配架や予約本の回収、蔵書点検を任せられ、休み時間には同僚と歓談して過ごす。家に帰れば、自分で夕食を作り、好きな本を読んでくつろぐ。知的・身体・精神など障害のある人の姿を通して働く楽しさを伝えるLLブック。写真が多くやさしく読める。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『カブトムシの音がきこえる』 小島渉/文 廣野研一/絵 福音館書店 2021.5 ¥1300

カブトムシのメスは7月末に腐葉土に産卵、10日後にふ化、幼虫は次の年の7月までずっと土の中で過ごす。その間、敵であるモグラや鳥の目をかいくぐり、栄養価の高い腐葉土を食べてぐんぐん成長。やがて蛹になり1か月で羽化し、地上で1～2か月を過ごすという、わずか1年のカブトムシの一生をわかりやすく紹介。著者は山口大学理学部助教。たくさんの方のふしぎ傑作集。

『ここにいつかしの種をまく』 ダライ・ラマ 14世/文 ハオ・ルー/絵 久山太市/訳 石濱裕美子/監修 評論社 2021.4 ¥1500

1935年チベットで生まれ、ダライ・ラマ 13世の生まれ変わりとして、ダライ・ラマ 14世として生きることになった私。母は人々にあたたかみで接することを教えてくれた。今、母が私に与えてくれた慈しみの種を、全世界に向けてまき、慈悲の思いを伝え続ける。自らの幼い日を振り返り、慈悲の心の大切さを未来をにう子どもたちに向けて語った初めての絵本。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『子どもへのハラスメント』 喜多明人/監修 PHP研究所 2021.3 ¥3200

ハラスメントとは、嫌がらせをされたり、理不尽に不愉快なことを言われたりすること。最近まで、子どもの権利を侵害するハラスメントはなかなか気づかれず、救済されてこなかった。子どもの人権や、子どもの権利条約、具体的なハラスメントの概要を解説する。ハラスメント行為を受けた時、我慢せず、信頼できる人に相談したり、助けを求めたり抗議したりしてもいいことを学ぶ本。

<ノンフィクション—中学生から>

『図解身近にあふれる「元素」が3時間でわかる本』 左巻健男/編著 元素学たん/著 明日香出版社 2021.5 ¥1400

楽しくわかりやすい科学の本の著者として定評のある左巻氏と、国際周期表年 2019 専門部会委員に選出された科学系 YouTuber 元素学たん氏による共著。「湯飲みやお茶碗は何でできている？」など、身近な「もの」に関わる元素について図表も交えて解説。「思わずだれかにも話したくなる」意外な情報も満載。シリーズに「科学」「物理」「生き物」「微生物」がある。

『コミュニケーション力を高めるプレゼン・発表術』 上坂博亨 大谷孝行 里見安那/著 岩波書店 2021.3 ¥880

現代社会で求められる「プレゼンテーション」と「コミュニケーション」の力。プレゼンの組み立て、スライドの効果的な作り方、スピーチの構成、発声法にいたるまで、相手に伝わるものにするための方法が具体的に説明されており、必要な箇所からすぐに実践できる。自己表現力を高めたい高校生、大学生や新社会人向け。付録に「日本語表現の忘備録」。岩波ジュニア新書。

<研究書>

『変化する社会とともに歩む学校図書館』 野口武悟/著 勉誠出版 2021.4 ¥2200

子どもの貧困、高度情報化、少子高齢化、そしてグローバル化。社会の変化とともに変わる学校図書館の現在を、制度や歴史から概説しながら、教育を取り巻く様々な社会的課題への学校図書館の向き合い方を考える一冊。保護者など実務者以外で学校図書館に関心のある人向けに平易に書かれ、コラムで実践例も紹介。巻末に「新型コロナウイルスの感染拡大と学校図書館」という補章あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。